

諏訪湖の学びと発信拠点

岡谷 環境研究センターあす開所

岡谷市の諏訪湖畔にある県男女共同

参画センター「あいとびあ」内に4月

1日、県諏訪湖環境研究センターが開

所する。諏訪湖を中心とした県内の湖

沼や河川の水環境・生態系保全を目的

に、県の複数の機関で行ってきた調査

研究機能を集約。学びと情報発信の拠

点としての役割を担い、湖の研究をす

る大学や住民グループとの連携も一層

強めていく。1日の業務開始後、9日

には阿部守一知事らが出席して開所式

を行う。

(松本佳林)

建物を改修し、2、3、4階部分

に研究室や検査室、分析室など

を設けた。県環境保全研究所長

野市が保有していた機器類

の一部のほか、湖水に溶け込ん



岡谷市の「あいとびあ」内に開所
する県諏訪湖環境研究センター

県は当初2023年度の開

所を目指していたが、2、3

階部分の床の補強や建物の環

境性能の向上が必要と判断。

開所を延期して関連工事を進

めてきた。屋上には約160

枚の太陽光パネルを新設し、

使用電力の一部を賄う。

環境研究センターは県環境

部水大気環境課が所管し、約

20人を配置。センター長には

1日付で国立環境研究所客員

研究員の高村典子氏が就任

し、県諏訪地域振興局環境課

長の田邊皇子氏が転任して所

長に就く。信州大学諏訪臨湖

実験所（諏訪市）や公立諏訪

東京理科大学（茅野市）、市町

村、住民グループとの連携を

強め、湖の総合計画「諏訪湖

創生ビジョン」の実現に向け

た延べ床面積は約3300平

方。1階エントランスホー

ルとホワイエには、大量繁殖

が課題となる水草ヒシや貧酸

素の発生メカニズムに関する

解説子どもたちが楽しみなが

ら環境学習できる展示物を設

け、水質保全・生態系などに関

する啓発や学びの場とする。

センターとの共用部分を含め

た延べ床面積は約3300平

度の密度で生息しているかを